

# 第10回 朝霞地区訪問看護ステーション連携の会 アンケート集計結果

日時:令和8年3月11日(水) 18:00~19:30

## 【参加者数】

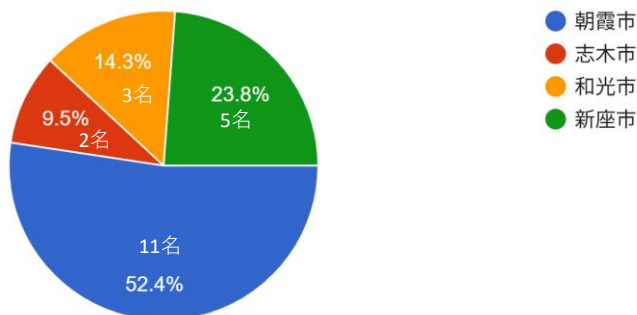
- 事前申込数：23ステーション
- 当日参加者数：20ステーション（31ステーション中65%）
- アーカイブ再生回数：16回（R8.4.1現在）

## 【アンケート】

- 回答者数：21名
- 集計期間：3/11~3/31

### 1. 事業所の所在地

21件の回答

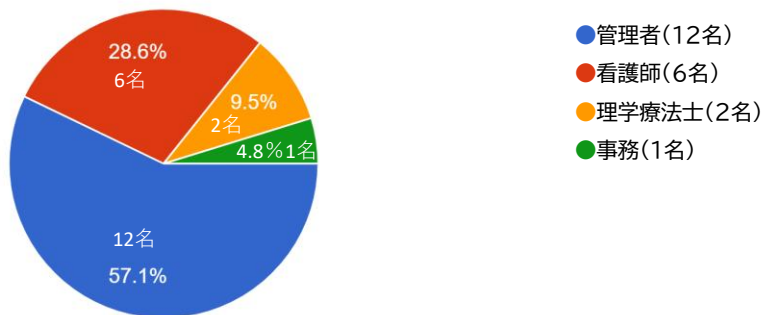


### 2. ステーション名

ステーション名	当日参加	アーカイブ参加・アンケート回答
さくら訪問看護ステーション	管理者（鈴木氏）	
あさか相生病院訪問看護	管理者（渡部氏）	
訪問看護ステーションアルゴ朝霞	管理者（田中氏）	
とわ訪問看護ステーション	管理者（田口氏）・看護師 1	
あさか訪問看護ステーション		管理者（小泉氏）・看護師 2
エース訪問看護ステーション	管理者（杉村氏）	
彩訪問看護リハビリステーション	管理者（高原氏）	
ソフィアメディ訪問看護ステーション朝霞	管理者（工藤氏）	
指定訪問看護アットリハ朝霞	管理者（宇佐美氏）	理学療法士
TMG宗岡訪問看護ステーション	管理者（浅野氏）	
訪問看護ステーション志木みずほ	管理者（青野氏）	
訪問看護ステーショントータルケア志木朝霞	管理者（岡田氏）	
和光福祉会訪問看護ステーション		管理者（阿部氏）
菅野病院訪問看護ステーションおれんじ	管理者（萩原氏）	
訪問看護ステーションあおい	管理者（工藤氏）	
静風荘病院訪問看護ステーションひまわり	管理者（松永氏）	
訪問看護ステーションみどり	管理者（清水氏）	
訪問看護ステーションあおば	管理者（柴田氏）	
訪問看護ステーションつくし	管理者（桑田氏）	
新座園訪問看護ステーション	管理者（森高氏）	
訪問看護ステーション「轍」わだち	事務（有村氏）	
ロイヤルレジデンス新座	管理者（齋藤氏）	

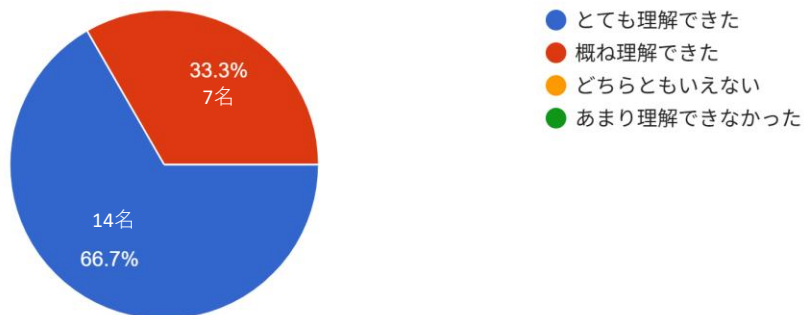
### 3. 職種

21件の回答



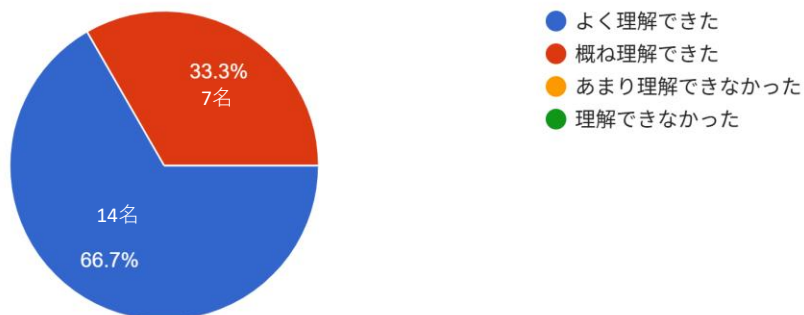
### 4. 本日の会の内容は理解しやすかったですか

21件の回答



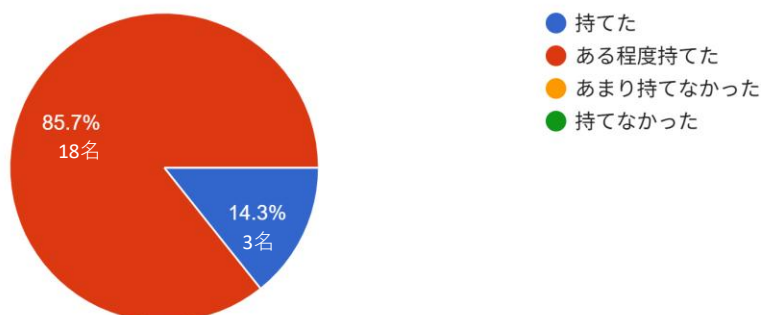
### 5. キーステーション体制について理解できましたか

21件の回答



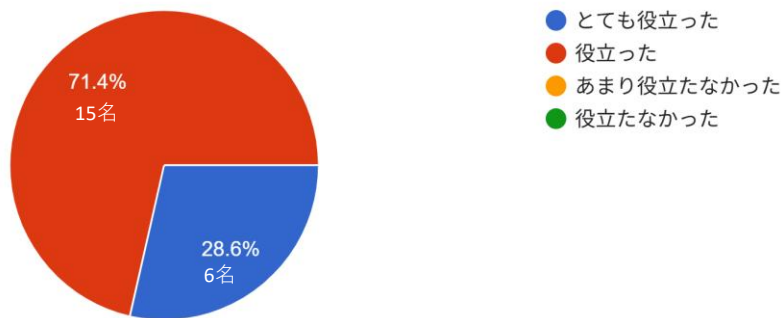
### 6. 感染症・災害時の連携イメージは持てましたか

21件の回答



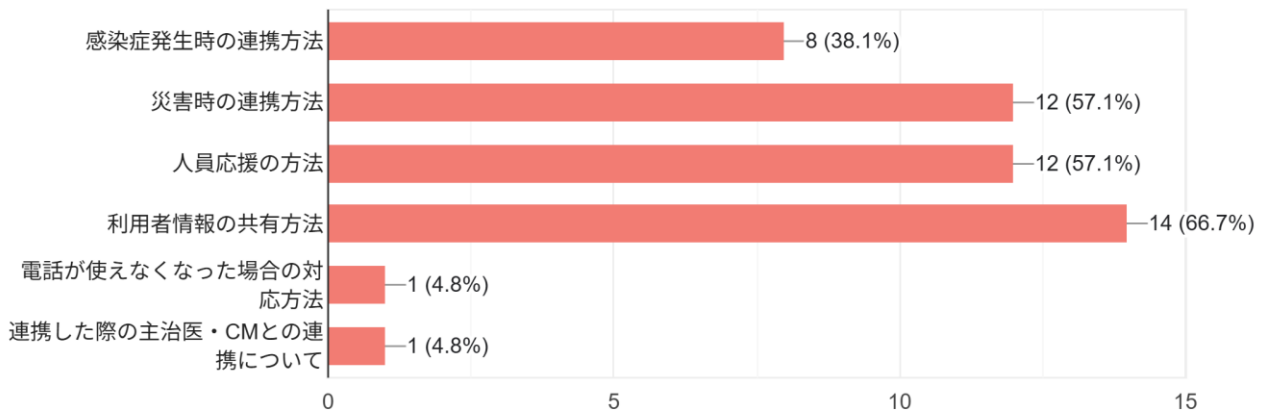
### 7. シミュレーションは実際の連携を考えるうえで役立ちましたか

21件の回答



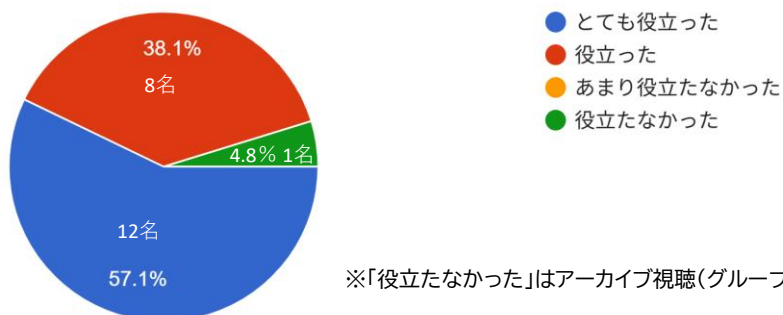
### 8. 今後さらに知りたい内容はありますか（複数可）

21件の回答



### 9. グループワークは他ステーションとの関係づくりに役立ちましたか

21件の回答

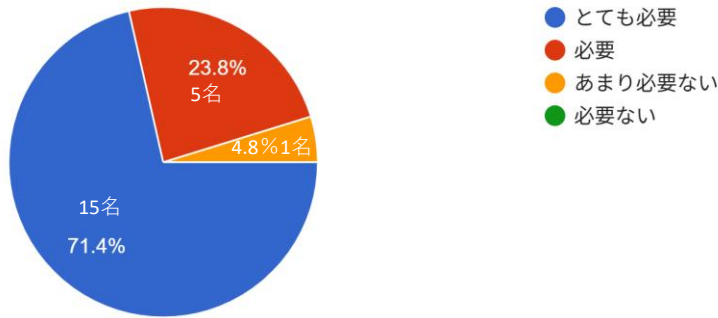


※「役立たなかった」はアーカイブ視聴(グループワーク不参加)の方の回答

## 10. この連携の会は今後も必要だと思いますか

21件の回答

※管理者名12名・その他9名



### 11. 今後取り上げてほしいテーマをご記入ください。

- ・実地訓練
- ・災害時ケアシートの具体的例
- ・災害時の他職種連携について
- ・引き続きBCPに関する連携
- ・看取り
- ・災害時の連携方法について
- ・災害時での独自の取り組みなどあればお聞きしたいです

### 12. ご意見・ご感想などありましたらご記入ください。

- ・GoogleドライブのURLをもう一度MCSに貼って欲しいと要望がありました。宜しくお願い致します
- ・会を重ねて顔の見える関係が構築できていると感じます。必要なことを一緒に作っていけると期待しています。
- ・初めて他ステーションの管理者と顔を合わせる場となり、安心しました。リハビリの方などエム・シー・エスでしかやり取りしなかったため、改めてどんな方と情報共有しているのか、知るきっかけになりました。他ステーションの災害時の対応も、みんな不安を抱いているのだと実感しました。
- ・何も準備できていない状態だったので、今後何が必要で、何から手をつけていけば良いか、少しわかってきたのでよかったです。
- ・ありがとうございました。
- ・今回の災害時の協力体制について、継続していただきたいです。
- ・建物全壊で避難場所に移動した際にどこまで必要なのか？家族や行政からの情報はどうやってとっていくのか？災害時はパニックになりそうで、やはりシミュレーションが必要かと思いました。

# 第10回 朝霞地区訪問看護ステーション連携の会

アンケート結果・推進メンバー振り返りからの考察

## 1. 連携の必要性と継続開催について

・アンケート結果では、連携の会について約8割が「今後も必要」と回答しており、多くの参加者が継続開催の必要性を感じていることが確認された。また、参加者からは「他ステーションの管理者と顔を合わせることで安心した」「他ステーションも同様の不安を抱えていることが分かった」「会を重ねることで顔の見える関係が構築されている」といった意見が寄せられた。これらの結果から、本連携の会は情報共有の場としてだけでなく、事業所間の信頼関係構築や心理的な安心感の醸成にも寄与していると考えられる。特に災害時や感染症発生時においては、平時からの顔の見える関係づくりが円滑な連携につながるため、連携の会の継続開催は必要であると考えられる。

(1) 当日参加は31ステーション中20ステーション(65%)であり、多くの事業所が関心を持って参加していたと考える。一方、アーカイブ再生回数は16回であり、当日参加できなかった事業所においても内容共有が図られている。訪問看護ステーションは緊急対応等により当日参加が難しい場合も多いため、アーカイブの活用は地域全体への情報共有を進めるうえで有効であると考えられる。今後も当日参加とアーカイブ視聴を併用した運用を継続することが望ましい。

## 2. 災害・感染症対応に向けた課題の明確化

・アンケートでは、今後取り上げてほしいテーマとして「実地訓練」「災害時ケアシートの具体例」「災害時の他職種連携」「災害時の連携方法」など、より実践的な内容を求める意見が多く挙げられた。また、推進メンバー振り返りでは、以下の課題が共有された。

- ・事業所間でBCPや災害対応の整備状況に差がある
- ・同一法人内でも事業所ごとの対応にばらつきがある
- ・患者・利用者の同意取得が未整備
- ・ケアシートの作成が進んでいない
- ・何から始めればよいかわからない事業所がある

これらの結果から、災害時の連携の必要性については一定の共通認識が形成されたものの、実務面での準備はまだ十分とはいえず、具体的な体制整備が必要と考えられる。このため、第11回連携の会で検討課題とする。

## 3. 連携における制度・運用上の課題

・推進メンバーの振り返りでは、法人ごとの規定や契約、記録ルールの違いが連携の障壁となる可能性が指摘された。また、ケアの優先順位や災害時の対応方針についても事業所ごとにばらつきがあることが確認された。

これらの課題は実際の連携を進める上で検討事項であると考えられる。今後はフォーマットの作成や運用ルールの共有を行い、事業所間の認識の統一を図る必要がある。この課題については、第11回連携の会で検討することとする。

## 5. 同職種連携から多職種連携への発展

・今回の振り返りでは、訪問看護ステーション間の連携だけでは災害時の対応が困難であり、医師やケアマネジャーなど多職種との連携が必要であるとの意見が挙げられた。また、アンケートでも災害時の他職種連携について関心が示されていた。これらのことから、現在の連携の会は訪問看護ステーション間の連携を基盤としながら、今後は地域全体での多職種連携へと発展させていく段階にあると考えられる。

## 6. 今後の方向性

・今回のアンケートおよび振り返りの結果から、今後の連携の会の方向性として以下の点が挙げられる。

- ①ケアシート・同意書等の整備
- ②各事業所の運用ルールの共有とすり合わせ
- ③キーステーション単位でのグループワークの実施
- ④実践的なシミュレーションの導入
- ⑤医師・ケアマネジャー等多職種への周知と連携の拡大

これらの取り組みを段階的に進めるとともに、まずは連携の会の活動について多職種に理解を得ていくことが必要である。

## 7. まとめ

第10回連携の会では、災害・感染症時の連携の必要性について参加者間で共通認識が形成されるとともに、事業所間の課題や今後の方向性が明確となった。特に、連携の会が顔の見える関係づくりに寄与していることが確認され、継続開催の意義が再認識された。一方で、実務面での体制整備や多職種連携など、今後取り組むべき課題も明らかとなった。今後はフォーマット整備やシミュレーションの実施など、より実践的な取り組みを進めることで、災害時・感染症発生時にも対応可能な地域連携体制の構築につなげていくことが必要である。

以上  
文責：高田